

西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年5月

今月の重点活動

■有機農業 第1回西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議の開催

5月9日、神戸町にて、農林事務所が立ち上げた有機農業推進プロジェクトチームの第1回会議を開催した。営農モデル実証ほ生産者、JAにしみの、神戸町役場及び県農産園芸課が出席し、今年度の取り組みについて検討を行った。

プロジェクト3年目となる今年度の大きなテーマは、有機水菜の有利販売と考えられる。PR活動として、5月16日より開催される「岐阜県農産物オーガニックフェスタ」に「神戸町の有機水菜サラダ」で参加するため、当日は食材となる実証ほの水菜の生育状況について現地確認を行った。

また、実証生産者からは、ぎふ清流GAPの「化学肥料・化学農薬の不使用区分」の評価を受けたい意向が示された。農林事務所では申請手続きの支援を行い、有機＝化学肥料・化学農薬不使用のアピールにつなげたい。



【実証ほ現地確認の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー GLAMA総会、事業推進検討会の開催を支援

5月24日、岐阜県庁において、女性農業経営アドバイザーの県連組織である「GLAMAいきいきネットワーク」の総会および第1回事業推進検討会が開催された。

今年度は西濃ブロック会長がGLAMA会長を兼任することから、農林事務所が会の開催運営を支援した。当日、指導農業士及び青年農業士連絡協議会と合同で、感謝状贈呈式・認定証付式、指導力向上研修会も併せて実施された。

今後の行事として、秋にGLAMA視察研修会が中濃地域で予定されており、西濃ブロック単独でも研修会を計画している。農林事務所では、アドバイザーの活動がスムーズに行えるよう支援していく。



【GLAMA 総会の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 「清流のめぐみ」をドローン播種実証

5月1日、海津市南濃町において、水稲の高温耐性品種「清流のめぐみ」の直播が行われた。

栽培管理を行うのは、地域の水田農業の担い手である(株)CAFで、事前にカルパーコーティング(酸素供給剤)した種もみを10a当たり4kg、面積80aで播種した。ドローン操作練習のため、オートパイロットではなく、マニュアル飛行で作業したため、時間は1時間を超えた。

海津市の他の営農組織のオペレーターも早朝から作業を見学に訪れた。

今回の取り組みは県の「需要対応型ぎふ米産地ブランド確立支援事業」を活用しており、農林事務所は生育調査を継続していく。



【ドローンは種の様子】

■小麦 現地検討会の開催支援

5月21日、JAにしみの本店及び現地において、小麦現地検討会が開催された。

室内検討では、令和6年産小麦の生育状況や米穀情勢などについて各関係機関から情報提供が行われた。農林事務所は、出穂期からの収穫予想、赤かび病の発生状況、脱プラ・減プラ試験について情報提供した。

また、現地検討では、海津市の脱プラ・減プラほ場において、JAから試験概要について説明が行われた。

農林事務所は、今後も高品質小麦の収穫に向けて支援を行っていく。



【現地検討会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■加工業務用タマネギ 収穫前の作柄状況調査を実施

5月15日、JAにしみの、全農岐阜及び農林事務所による加工業務用タマネギのほ場巡回を実施した。各生産者のタマネギ生育状態から収穫時期の推測と出荷予測、今後の防除実施について情報共有を行った。

農林事務所では、今作の結果から次作に向け、課題を洗い出し、加工業務用タマネギの産地化を支援する。



【作柄状況調査の様子】

■いちご 栽培研修会の開催

5月9日に海津いちご部会、5月10日に平田町苺園芸組合の栽培研修会が開催された。

令和5年産は、秋の高温による花芽分化の遅れや厳寒期以降の急激な寒暖差による草勢の低下等により、収量が低下した（5月上旬現在、西濃全体で累計数量前年比92%）。そのため、農林事務所は令和5年産の反省及び6年産に向けた改善策の提案を行った。

農林事務所では、令和6年産の親株育苗について引き続き支援を行っていく。



【栽培研修会の様子】

■冬春トマト 栽培研究会の開催

5月17日、海津トマト部会は、栽培技術向上に向けた栽培研究会をJAにしみの海津中支店で開催した。

農林事務所は、現在の生育状況及び令和6年産で実施した品種試験や防除試験について説明を行った。次作に向けた病虫害対策や品種選定につなげるため、活発な意見交換がなされ、有意義な研究会となった。

農林事務所では、引き続き栽培技術等の指導を通じ、トマト産地の活動を支援する。



【栽培研究会の様子】